

営業先で図面自動作成

新晃工業、空調機設計システム

新晃工業は空調機器の設計や生産のノウハウをデジタル化し、営業、設計、生産、アフターサービスの各業務基盤（プラットフォーム）として活用できるシステムの構築を始めた。個別設計が必要な機器でも営業担当者が顧客の要望に応じ、その場で設計図面を提示できる仕組みを目指す。工場の生産方式を合わせて改革し、神奈川工場（神奈川県秦野市）の隣接地に新方式を実現する新工場の建設も視野に入れる。

新システム構築計画（シンコー・イノバーチャリング・オブ・A月までに営業担当者の名称は「SIMA」タイプ・マニユファク「HU」）。2023年9データ入力から工場の



新晃工業が手がける空調機器のエアハンドリングユニット

生産に使うCAD図面作成までの工程を自動化する。初期投資額は20億円弱とみられる。さらに1年程度かけて、営業担当者がタブレット端末を使い顧客の目の前で要望に応じた設計図面を提示できるシステムを作る。人工知能（AI）による生産工数の予測技術なども盛り込む予定。同システムはアフターサービスや営業・設計担当者などの教育にも活用する。

新晃工業はセントラル空調と呼ばれる空調システムで使うエアハンドリングユニット

（空気調和機、AHU）やファンコイルユニット（FCU）といった装置を手がける。施設ごとに一品のモノづくりが必要で、営業から設計、生産の工数も多く、納期管理が複雑なのが課題だった。そのため、4月に製造と販売の2子会社を本体に吸収合併し、組織面でも製販の統合を推進。組織改革と新システムで、営業と設計・生産の連携を深める。新システムに合わせて生産方式も見直して神奈川の新工場などに導入し、各業務の大幅な効率化を目指す。

新晃工業はセントラル空調と呼ばれる空調システムで使うエアハンドリングユニット